

2019年 5月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文責 日高

あがつま
群馬県吾妻溪谷を訪れた時の作。仕事の合間の散歩の折に、何気なくうしろ手を組みながらそれが父の癖であることにふと気づいたことを詠んでいる。『くろ土』収録。大正9年5月作

※会 費 1 回につき 500 円ご負担いただきます。

『みなと』展 開催中

毎年 8 月に日向市で開催されている『牧水・短歌甲子園』。今年も全国の高校生を対象に作品募集が始まりました。この大会を陰となりひなたとなり盛り上げてくれているのが OB・OG『みなと』のメンバーたちです。高校を卒業しても『牧水・短歌甲子園』に関わってくれています。夏の再会が今から楽しみです。

現在は、それぞれの地でそれぞれの道を歩んでいる『みなと』の彼ら。

今でも短歌を読み続けている彼ら。

彼らの作品がここ文学館に寄せられました。『牧水・短歌甲子園』を前にここに掲載した作品を含めて文学館ギャラリーにて公開展示します。どうぞお立ち寄りください。

冬の夜のだれやめ年を超えるたび母が惹かれた父を知るなり

第 2・3 回出場

海老原 愛

24時10分発の終電に横目で見られつ道端で寝る

第 5 回出場

甲斐 いづみ

A3のスケッチブックで生きている三月 人は生かされている

第 5 回出場

宮本 卓明

青春はいつまでなのかと考えてやっぱりどうでもいいやと思う

第 5 回出場

江藤 裕子

水仙の霊に憑かれているようなしろきもの立つティッシュの箱に

第 5・6 回出場

狩峰 隆希

簡単にはら重力は遅延する生ゴミ袋を振り子にすれば

第 5・6 回出場

牧 将暉

人に手を引かれていたいたんぼのわた毛を風が連れてくように

第 5・6 回出場

今村 亜衣莉

来月で三歳になるぬか床を起こして我が家の朝が始まる

小田原 滉紀

明けぬればクルルクルルと鳩が鳴き空の広さを思い知れ君

第 6 回出場

久永 草太

まんとひひ。あまり悩まず君が「火」と返す。真顔で。どきっとする

第 6 回出場

石井 大成

ふるさとの庭にゆらめく竹枯れて紅色の花咲き息終える

第 7 回出場

今東 壮之晟

オレンジに染まる陽と雲この先は宇宙なのだと気づけなかった

第 7・8 回出場

佐藤 翔斗

手付かずのコーヒーがただ冷めていく貴方の声はまだ覚えてる

第 8 回出場

大塚 瑞穂

校庭に描く地上絵白と黒 雨が降るからもう帰ろうか

第 8 回出場

尾和瀬 歩也

自転車を押して歩こう右耳に短歌を運ぶ土手の春風

第 8 回出場

帖佐 光浩

お客さまの声に元気をいただいています



中学時代に国語の先生から紹介された 白鳥は・・・ 幾山河・・・ の二首に誘われて立ち寄らせていただきました。感激しました。【山口県宇部市 70 代】

牧水の摘みでは捨てし秋草の末裔^{すえ}かも知れぬここに咲けるは【佐伯市宇目短歌会一同】

啄木記念館の「啄木と牧水」企画展で牧水を知り、今では牧水の方が好きになりました。人生は旅だと教わり、今、日本一周中。【茨城県石岡市】

またきます。1 年 4 組 ○○○○ 【東京都町田市】

年々訪ねたいと願っていて来ることができました！この地の人たちのあたたかさに教えられること多々。文学館、よかったです。【岐阜県中津川市】